

～文教のまち西原～



にしはら

2012
1
No.479

謹んで新年のお慶びを申し上げます

迎春

町の世帯・人口 平成23年11月30日現在

人口	男	17,454人
	女	17,397人
	計	34,851人
世帯数		13,223世帯

編集・発行／西原町役場 西原町字嘉手刈1-2番地 ☎098(945)5011 印刷／(株)沖産業

西原町・琉球新報社タイアップ企画

移動編集局「西原ウィーク」開催!

協働のまちづくりを目指して 地域づくりフォーラムを開催

「地域づくりフォーラム」が11月8日、町中央公民館で開催され、上岡明町長や、まちづくりに関わる団体・個人らが参加し、西原町の魅力や今後のまちづくりをともに考えました。「まちづくりに関する報告」と銘打った基調講演で上岡町長は、策定に向けて取り組んでいる「西原町まちづくり基本条例」に触れ、「町民・議会・行政が一緒になって検討している。まちづくりの計画とうまく結び付けたい。」と方針を示しました。また、各種事業の推進に向け、「協働のまちづくり」がキーワード。住民もアイデアを出し合い、地域のことは地域で、行政のできることは行政でという発想の転換が必要。」と語りました。

続いて行われたパネルディスカッションには、4名のパネリストが参加しました。

盛島董純氏(ニシバル歴史の会会長)は西原町の地域資源に触れ、「歴史好きにとって、西原といえば内周御殿。内周御殿の国指定をきっかけに、金丸が西原に目をつけたという点に注目してほしい。」と呼びかけ、小波津勇氏(西原町商工会会長)は、「まちづくりは住民と行政らが力を合わせて行う地域経営だ。住民が積極的にまちづくりに参加し、活力あるまちにしていこうという意識が大切。」と語りました。

新田繁睦氏(まちづくり町民会議メンバー・お父 Ring 沖縄共同代表)は「引っ越してきて1年余りだが、自分の子どものふるさとなる西原が誇れる町になるよう、いろんな活動に参加している。」と、まちづくりに抱く思いを伝え、喜屋武ひろみ氏(西原南小読み聞かせサークルバステル代表)は自身の活動を「今は学校も時間を割いて活動の場を提供してくれる。読み聞かせを続けることが大事で、まちづくりの大事な根っこを作り、支えていると思う。」と振り返ると、会場から拍手が沸き起こりました。



11月7日から13日の日程で、西原町と琉球新報社がタイアップして開催された移動編集局「西原ウィーク」。地域づくりフォーラムなどの企画を通じて、魅力ある西原町を町内外に発信しました。また、「3Dワールド」上映会やバスケット教室などの関連企画に多くの方が参加、イベントを楽しみました。期間中、琉球新報の紙面ではそれぞれの企画の様子や西原町の特集記事などが連日、掲載されました。

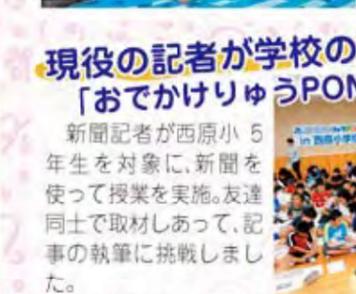
プロバスケット選手に学べ! —キングスバスケット教室—

11月10日、「キングスバスケット教室」を開催。ジェフ・ニュートン選手、山城吉超選手、澤崎安史選手、伊佐勉アシスタントコーチの4名が指導にあたりました。



飛び出す映像に大興奮! 「3Dワールド」上映会

11月13日、町立図書館で開催され、多くの親子連れが立体映像を観賞しました。



写真が語る、まちの歴史 —報道写真展—

「報道写真展」が11月7日から11日の間、町役場玄関ロビーで開催しました。



現役の記者が学校の先生に「おでかけりゅうPON!」

新聞記者が西原小5年生を対象に、新聞を使って授業を実施。友達同士で取材しあって、記事の執筆に挑戦しました。



黒糖の不思議を図書館で学ぼう!

—琉球大学教育学部が子供向けイベントを開催—

かつて本町の主要産業だった糖業を、図書館の本や実験から学ぶ企画、「黒糖の不思議を発見しよう!」が11月10日、町立図書館で開催され、この日図書館を訪れた約20名の子どもが参加しました。イベントは琉球大学教育学部の講義の一環として、教員や図書館司書を目指す学生らが企画したもので、図書館の本や資料を子どもの学習に中の活用することを目指して開催されました。

実験コーナーでは、サトウキビから黒糖ができるまでを図で説明し、黒糖と三温糖や和三盆糖などの砂糖を味比べしたり、ジュースの糖度を測定したりしました。そのほかに、さとうきび畑の地図記号をオリジナルで考える地図コーナー、黒糖に関する穴埋めクイズを図書館の本で調べて答えるコーナーなどが企画され、子どもたちはそれぞれのコーナーで黒糖について学びました。

イベントを主催した琉球大学教育学部の学生は「サトウキビと製糖業の歴史を持つ西原町を、歴史的に、感覚的に、学問的に知るため、3つのコースを用意した。これを機会に図書館の活用方法が広がれば」と期待を寄せました。

